



グループのシナジー発揮

中期経営計画の2年目に入った。「収益性を重視した経営に弾みをつけるステップ」の年にしたい」と語る。自身に課するのは「震災復興後の新たな東北モデル」の構築。営業、工事、製品販売、シミズグループ舗装会社の四輪でビジョンを共有することで、シナジー（相乗効果）を発揮し目標達成にまい進する。

東北の市場を「環境配慮型の新技術・新工法の推進が鍵になる」と読む。ペットボトルや漁業廃材を再利用したアスファルト混合物は自治体や環境意識の高い民間企業で採用が始まり、さらなる拡販に向け「アクセルを踏み込む」姿勢だ。民間工事の中では直接受注をターゲットに収益拡大を目指す。花巻東高校のグラウンドの人工芝化工事も手掛けた。市場が注目される陸上・洋上風力発電の送電線工事にも注力する。

支店運営では4週8休の定着に知恵を絞る。東北特有の除雪など繁忙期の負担も踏まえつつ、心身の健康維持を支える職場づくりにも努める。「職員の声をくみ取り、課題を掘り起こす」方針だ。「三振なら見逃しよりもフルスイング」と挑戦する背中を押す。東北は23年ぶりの赴任。「大きな仕事があったくて上司に直訴した」という仙台空港のコンクリート舗装や新千歳空港滑走路の経験は誇りになっている。水泳やサイクリングで汗を流すのが趣味。スポーツ観戦も楽しみにしている。

（4月1日就任。北海道大工学部土木工学科卒。神奈川県出身、52歳）

